東京都北区立袋小学校

令和5年度　北区立小学校学力向上を図るための全体計画

令和5年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	学校全体（2～6年）の国語の正答率は、全ての学年が区の平均正答率と同等か、もしくはそれを上回っている。しかしながら、「書くこと」に関する領域においては、学年が上がるにつれて区の平均正答率を下回る傾向が見られた。普段から書く習慣を身に付けられるよう、低学年のうちから書く力の育成を推進していきたい。
社会	学校全体（5，6年）の社会の正答率は、全ての学年が区の平均正答率と同等である。やや知識の定着に課題が見られる様子があることから、単元学習後に復習の機会をもつなどの工夫をしていきたい。また、内容別では「都道府県の様子」「工業生産」で課題が見られているため、知識・技能面の定着を図っていく必要がある。
算数	学校全体（2～6年）の算数の正答率は、全ての学年が区の平均正答率と同等か、もしくはそれを上回っている。しかしながら、学年が上がるにつれて区の平均正答率と同等となる傾向が見られた。特に、観点別では「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が低くなっている。基礎・基本的な力の定着を図るとともに、問題解決型の授業を展開させていく必要がある。児童自身が自らの学習課題をもち、主体的に学習に取り組んでいけるようにしていきたい。
理科	学校全体（4～6年）の理科の正答率は、全ての学年が区の平均正答率と同等か、もしくはそれを上回っている。どの領域や観点別においても、区の平均正答率を上回っているものが少ない。このことからも、基礎・基本の定着を図りつつも、観察・実験などを通じて、科学的に探究する学習活動（主体的に学習に取り組む活動）における指導の充実を図っていきたい。

本校の教育目標

〇よく考える子

〇体をきたえる子

〇思いやりのある子

〇最後までやりぬく子

学力向上にかかわる経営方針

・「わかる」「できる」喜びを味わえる授業改善
・北区基礎・基本の定着度調査等の結果を基にした個に応じた指導の充実
・授業観察による指導・助言や校内研修等のOJTの推進（きたコンの扱い方を含む）
・GIGAスクール構想に基づく、ICT機器の活用

本校が児童に育成したい力

・生きて働く「知識及び技能」の習得
・未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」の育成
・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

校内における学力向上推進体制

学力向上に関する特別委員会（研究推進委員会、学力向上・少人数推進委員会、通知表委員会、特別支援教育委員会）、分掌（授業改善推進プラン、学校図書館、放課後補充教室（学力フォローアップ教室）等を有機的に機能させ、児童の学力向上を図る。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・課題解決型・探究型授業の実践 ・児童に「わかる」「できる」喜びを味わわせる授業づくり ・学習活動「振り返り」の充実と継続 ・十分な教材研究によるねらいの明確化 ・児童が主体的に取り組む学習活動 ・授業のユニバーサルデザイン化 ・GIGAスクール構想に基づく、きたコンの積極的な活用 ・Q－U調査を活用した学級経営	・授業時間確保のための学校行事の継続的な見直し ・生活科・総合的な学習を中心としたカリキュラムマネジメントの計画 ・放課後補充教室（フォローアップ教室）の充実 ・きたコンを活用した学習タイムの推進（個別最適化した学習） ・日本語学級の充実と担任との連携	・運動の楽しさや喜びを味わい、三つの資質・能力を育む体育学習を目指した授業づくりについての校内研究 ・授業改善を図るための、教員同士の積極的な授業参観−ブロック会での事後検討を通して− ・組織的で授業に生かせるOJT（校内研究関係、情報モラル等）	・児童の実態に即した評価規準に基づいた観点別評価の実施 ・評価規準や評価方法の工夫・改善（きたコンを利用したデジタルポートフォリオの活用） ・きたコンを活用した教科横断的な学習計画の作成 ・PDCAサイクルを意識した指導と評価の一体化	・学校ファミリーにおける情報交換 ・地域の教育力の活用 ・保育園等との交流 ・ホームページの充実と更新 ・学校ボランティア、PTAとの連携 ・学校便りの発行（月１回） ・児童の変容を自身も保護者も感じる事ができるキャリアパスポートの活用

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （6年）

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
国語	目標値に対し同程度又は上回っている項目は多いが、「5年生に配当された漢字を正しく書く」ことと「敬語について理解し、正しく使っている」ことと「資料から読み取った事実を書いている」ことに課題が見られた。漢字は習った後も定期的に振り返りを行ったり、文章は、説明文などで根拠を明確にしながら読むことを大切に取り組ませたり、敬語についても日常生活の中で言葉遣いを丁寧に意識させたりする必要がある。	漢字は、復習テストを行い、継続的に覚えていける手立てを取る。正しい言葉遣いや丁寧語を使えるように日常的に扱う。文章なかで、何が一番大事か要点や要約、要旨をまとめる活動を取り入れ、書く力と読み取る力を伸ばしていく。	きたコンのEライブラリやスタディサプリなどのコンテンツを活用したり、類似問題に取り組ませたりする。漢字の定着を図るため、ミニテストなどでくり返し練習させる。ビブリオバトルやコトバト、句会などの活動を通して、他者を意識したプレゼンテーションや語彙を増やす機会を意図的につくる。書くことへの抵抗をなくすため、百字作文など文字数を制限した文章を書く活動などを行っていく。
社会	目標値に対し、同程度もしくは下回っている項目が多かった。「海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について理解している。」「農産ぶつの生産額の割合についてグラフにまとめている」については、類型外誤答、無解答が多かった。無解答を減らすための手立てを講じていく必要がある。	資料提示の工夫や資料の精選をする。日本全国へと学習が広がったので、日常生活の中でも野菜や果物の収穫高や名産品、土地の使用について話題にし、興味をもたせる。動画教材や資料集を活用しながら、定着を図らせていく。	きたコンを活用して補充の学習問題に取り組ませたり、その土地の特徴を調べさせたりすることで、その土地の知識と地図との関連を知る。無解答をなくすために、資料の読み取り方や解答方法の学び方も指導していく。
算数	区の目標値に対して、8割で正答率が上回るもしくは同程度であり、概ね定着していると考えられる。下回った「整数÷整数の商を分数で表すことができる」「帯分数－帯分数＝真分数（約分あり）で、分母同士をかける通分をする計算ができる」の結果から、分数単元において定着が図らせていく必要がある。また、正答率分布表を見ても、二分化している傾向が見られる。	つまずきやすい単元や内容を教師が把握し、児童の実態に合わせた授業構成をするなど日々改善をしていく。既習事項を大切に扱ったり、掲示物を作成し可視化したりしていつでもふり返られる環境を整える。類似問題や演習問題にたくさん取り組ませる。分かっていることや聞かれていることなどに〇やサイドラインを引かせ、演算決定を確実にさせる。計算問題など復習を反復練習させる。	二分化している現状をふまえ、習熟問題を用意したり、多様なヒントカードや問題を限定するなどしてどの子もその時間のめあてを達成できるような授業を組み立てていく。中学校進学へ向けて小学校の学習内容の復習をする時間を確保する。
理科	目標値に対し、概ね同程度の結果となった。目標値が低い項目に関しては、正答率も低く全体的に苦手な項目なのだと思う。好き嫌いがはっきりする教科であることから実験結果から考察する力を育み、様々な見方・考え方ができるようにする。	様々な実験器具を用いて使うことから、実験器具をの扱い方を丁寧に指導する。手順を大切に扱うなどして、実験に必要感を持たせながら、実験を行っていくことで、思考を深める手立てにしていく。	植物に関する単元がいずれも低かったため、日常的に植物を育て観察する機会をもたせたり、動画教材を活用したりしながら、可視化が難しい内容項目も理解できるようにしていく。きたコンのコンテンツを活用する。